

No7 自分の好きなことに夢中で、他と同じ学習ができない子への対応

自分の興味のあることに熱中したり、何度も同じことを繰り返したりして、学級の中でみんなと同じ活動をするのが困難な特徴をもつお子さんがいます。それらのお子さんは、周囲の状況に関係なく、自分の興味やこだわりが優先してしまい、集団の一員としての意識を感じにくいので、自分でも「同じことが出来なくて困った」「なんとか改善しよう」という自覚が持ちにくい訳です。お子さんの特徴を理解するとともに、徐々に集団に入れる配慮が必要です。

- ・好きな絵やイラストを書き出すと授業が始まって終わりにできない。
- ・好きな図鑑等は見ているが、他の学習はやらない。 等

- ・今、周囲は をしていて、自分も をしなければいけない、みんなと同じことをしないと恥ずかしい、という意識がうすい。
- ・学級の授業（学習）をすることの意義が本人に分かりづらい。（学習内容が、分からない、出来ない、おもしろくない等）
- ・「こだわり」が強く、自分の行動（衝動）をコントロール出来ない。

- ・子どもの「こだわり」にまず共感的に接することで、子どもがどんなことに興味をもっているのかを理解することが大切です。
- ・子どもの興味をうまくコミュニケーションや教材に生かしたりすると、会話が展開し、信頼関係を高めることが出来ます。
- ・周囲の状況を忘れてしまう程興味のあることに夢中になっているので、授業や、他の児童の活動を妨害する意図のないものであることを理解します。
- ・「こだわり」行動を行っても良い時間や場所を取り決めます。をしてよい時間・場所等を明記したカードをもたせ、コントロール出来た時にしっかり賞賛します。
- ・周囲の子どもにも、「さんは今こんなことを頑張っている」と伝えて、指導内容を理解してもらい、声かけなど出来れば協力してもらおう。

- ・広汎性発達障害（自閉症を代表とする発達障害）の傾向をもつ場合、物事に対する興味や関心がたいへん狭いことが多く、例えばカレンダー、地図、時刻表など限られた物に強い興味を持ち続けることがあります。

- ・自閉症は、「人とのかかわり（社会性）の困難」「コミュニケーションの困難」「興味や関心の狭さやこだわり」の3点に大きな特徴があり、自閉症のお子さんにとって、こだわった行動をとることは、本人の精神的な安定のために重要な役割を果たしていることもあります。
- ・とは言え、あまりにも多くの時間をこだわりの行動に費やしていると、対外的・社会的に不利益が生じますので、本人に分かり易いスケジュールや、納得出来る交換条件（「が終わったらしてもいい」というような）を提示して、徐々に定着させるようにしたいものです。



<指導のポイント>

固執行動やこだわりは、消去することを目指すのではなく、社会的に妥当なものに置き換えていくことが望ましいと考えられます。（例えば、水遊びが好きな子に、毎日植木・花の水撒き係をお願いする。など）

はじめから全部を変えさせようとせずに、最も変えやすいところから代替りの行動（許容範囲の行動）に置き換えられるよう工夫してみるとよいのかもしれません。